

北陸における循環型社会形成に向けたESDの推進

〒920-0962
石川県金沢市広坂2丁目1番1号
<http://www.ucon-i.jp/>



ひろげる助成

3年目

実践



ESD富山シンポジウム 会場の様子

学校教員の研修

21回

大学での講義科目

2科目

今年度計画の達成度

100%

活動の全体目標に対する達成度

100%

苦労した点と工夫した点



■ 苦労した点

直接つながりを持たない企業との連携のための接点づくり、長期間にわたる活動が期待できない学生の取り組み方法等が大変難しかった。

■ 工夫した点

企業との連携では自治体や関連団体の協力を、学生については学生サークルへの支援などにより、徐々に接点を深め、長期的な連携の構築を図った。

課題

循環型社会を幅広い概念としてとらえ、より包括的、体系的に持続可能な社会づくりに向けた循環型社会に資する活動を示すようなカリキュラムの開発・普及が求められている。

目標

北陸地域で、地域の特性を踏まえつつ、学校教育、大学教育及び企業を含む社会活動における適切な循環型社会の形成を図る。特に、持続可能な生産・消費の推進に努める。

活動内容と成果

ESDを活用して北陸における循環型社会形成に向けた活動を推進することを目的とする。北陸においては、多くの学校において節水や節電、紙の節約などに取り組む活動が行われているが、体系的ではない。そのため、以下の活動を柱として、循環型社会の形成に向けた取り組みの強化を図る。

①大学教育を対象とする循環型社会形成に向けたカリキュラム開発と実施。②学校教育における循環型社会形成に向けた各種カリキュラムの改善や研修の実施。③シンポジウムの開催等による企業や地域社会の循環型社会形成に向けた取り組みの推進。



ESD富山シンポジウム 子どもの発表

全助成期間の活動を振り返って

循環型社会を単に紙やプラスチックのリサイクル促進と考えている多くの学校に対し、より広範な概念として循環型社会を捉え、様々な実践活動に取り組む優良事例を示せたことは大きな収穫。小松市役所や石川県立泉丘高等学校等との連携により、実践的な取り組みができたことも成果。他方、企業との実質的な連携には時間と手間がかかるため、事業終了期間後も引き続き連携協力を推進していく方針。



勝山北部中 勝山を元気に！ハビネスダンス

今後の展望

本プロジェクトの活動を北陸ESD推進コンソーシアムが引き継ぐこととし、循環型社会に向けた取り組みを含む北陸のESD活動の推進を継続的に図る。企業との連携に関しては、小松市とも協力し、小松市内の大規模モールにおける食品廃棄物のリサイクルの推進、特に「顔の見えるリサイクル」実施の可能性の模索を続けることとしている。